

Sea Times

シンポジウムで基調講演を行う緒方貞子本学名誉博士

4
FEV 2003

緒方貞子氏名誉博士称号授与 アフガニスタン
女子教育支援シンポジウム記念レセプション



緒方貞子氏名誉博士称号授与・アフガニスタン女子教育支援シンポジウム記念レセプションで歓談する出席者



アフガニスタン女子教育支援にご理解を賜った
皇后陛下のご臨席のもとでシンポジウム記念
レセプションが開かれた



レセプションでの学長と皇后陛下



レセプションで緒方氏と歓談する皇后陛下

記事

表紙・目次.....	1	地上の星たち.....	4
お茶の水女子大学の行方 - 途上国の女性たちとともに学ぶ場として -	2	COE 拠点（発達心理学研究室）	5
大学院博士課程での日仏学術交流が始まる.....	2	SPP・サイエンスパートナーシッププログラム事業紹介 ...	6
緒方貞子氏名誉博士称号授与式.....	3	総合研究棟一号館完成間近.....	7
アフガニスタン女子教育支援シンポジウム.....	3	ようこそ！お茶の水学術事業会へ.....	8
		大学の暦・編集後記.....	8

お茶の水女子大学の行方

途上国の女性たちとともに学ぶ場として

本田 和子 学長

アフガニスタンの女子教育支援が本格化する。奈良女子大・津田塾大・東京女子大・日本女子大の五つがコンソーシアムを形成し、協力し合いつつアフガニスタンの女性教員を日本に招いて研修の機会を提供しようとする試みであるが、このことについては、先般、簡単にお知らせしたことがある。



本田和子学長

私たちは、いま、途上国の女子教育支援は、日本の女子大学、特に国立女子大学が担うべき重要な責務と考えている。

明治近代化以降、速やかな教育立国を志したわが国は、欧米先進国の援助と協力を得て、短期間で教育水準を高度化することに成功した。女子教育も例外ではなく、取り分け、第二次大戦後の教育改革期には、アメリカ教育使節団による強力な支援を得て、今日のような女子大学の誕生を見たことを忘れてはならない。現在の私たちの大学が、内外の有識者たちの女子教育に注がれる熱意の結晶であること、取り分け、国民の税金によってそれが実現されたことを思うなら、これまでに受けた様々な恩恵に報いる術を考えるべきであろう。本学が、今後、女子教育の黎明期にある途上国のため

に些かの力を提供することは、これらの恩恵に答えるためにも極めて重要な活動と言える。

さて、この企ての一つが愈々実現の機を迎えて、二月初旬から二〇名の女性たちが来日されることになった。ダリ語を話す人が多いとかいう研修団とどのように対応し、どのように研修の実を上げたらよいかと、五女子大学の関係者たちは、いま、知恵を絞らあつていいるが、ここで産み出された名案の一つが、学生たちの異文化インターンを兼ねた支援活動の組織化である。来日グループに学生が二人ずつペアで付き添い、一日の行動に目配りしつつ必要な援助の手を延べるといふ試み。勿論、ダリ語の通訳は付くのだが、何しろ地下鉄に乗ったこともないという一行に付き添って、細々としたその必要に応えるのは、たつた一人の通訳の手に余る仕事に相違ない。そこを補うのが学生達の勤め。参加する学生にとつては、言葉の通じない人たちと行動を共にするために、どのようにコミュニケーションを図ったらよいかを模索することの上もない機会となった。

国際化とは単に欧米の大学と交流したり、外国語が上達して外国事情に詳しくなることだけでなく、どんな地域のどんな文化を持つた人々とも、共に生きる仲間として手を取り合う努力をすること、そして、一人一人、自分に何が出来るかを模索し、可能な試みを通して共生の実を上げることにも他なるまい。研修団の来日を捉えて、こんな格好の教育実践が展開されることを心から嬉しく、感謝している。途上国支援は、単に国際貢献のための大学の事業であるだけでなく、ここで学ぶ学生たちが真の国際人として成長するための貴重な教育機会と思うからである。

大学院博士課程での日仏学術交流が始まる

室伏きみ子 理学部長



日仏共同博士課程調印式
調印者は日本側コンソーシアム代表の東京農工大学 宮田学長(右)と、副代表の明治大学山田学長(左) 後ろ中央がクロード・エニユエル女史

お茶の水女子大学を含む、日本、フランスの約六〇大が、共同で博士課程を設置することに合

意し、平成十四年九月十三日に、パリ市内の大学学長会議(CPU)において、日仏共同博士課程(コレージュ・ドクトラル・フランコ・ジャポネ)協定締結の調印式が行われました。本学からは、本田学長の代理として、私がこの調印式に出席しました。

これは、日仏の博士課程大学院生の交流を通じて学術交流を促進することを目的に、それぞれの国でコンソーシアムを創設し、両コンソーシアム間での協定締結が行われたものです。

このプロジェクトには、日本側からは、本学、東京農工大、東工大、一橋大、都立大、

明大、早大、立命館大などの国公私立二六大
学と一研究所、フランス側からは、ストラ
ブル、パリ、グルノーブル、マルセイユな
どの国立の主要三五大学が参加します。締結
式当日には、各大学の学長をはじめ、フラン
スの研究・新技術担当大臣クロード・エ
ニウエル女史や、外務省・科学大学研究交
流担当局長ベトン・ドレーグ女史、また小倉
和夫駐仏日本大使も出席され、とても盛大な
式になりました。

この協定の下で、大学院博士課程に在籍す
る学生が、三年間の在学期間のうち、原則一
年間を相手国の協定大学において研究指導を
受けます。そして、その学生は、両国の指導
教官の下で一つの学位論文を仕上げ、両国の
学位を同時に取得することができます。派遣
学生は毎年それぞれの国から三〇人程度が予
定され、その学生達には、それぞれの政府か
ら奨学金が給付され、協定大学では学生の入
学金や授業料は免除されることになっていま
す。今年に入つて、来年度の派遣学生の募集
が早速開始され、本学からも候補者が推薦さ
れました。

これまで米国一辺倒だった日本の姿勢を見
直し、古い歴史と哲学の基盤に立つたフラン
スとの間に若い人々の交流を広げることで、
広い国際的な視野からものごとを考え判断で
きる研究者を育てることが出来るとの期待が、
このプロジェクトに寄せられています。

緒方貞子氏名誉博士称号授与式

平成十四年十二月十八日(水)本学講堂(徽
音堂)において、緒方貞子氏の本学名誉博士
称号授与式が行われました。

この授与は平成十四年七月に名誉博士第一
号として決定していましたが、多忙な緒方氏
の帰国に合わせて計画されました。

授与式の学長挨拶で、女史の、国境・人種・
性別を超えた卓越した業績を讃え、同時代に
生き共感できたことへの誇りと、それが若い
女子学生にも励みとなるであろう事を授与理
由として述べました。



引き続き緒方氏は
挨拶で、この栄誉を
一緒に働いた人達と
分かち合いたい旨と
教育こそが一番創造
的の事業で、難民に対
しても個々に長く残
せた実感できた分
野であること、これ
からお茶の水女子大
学がやろうとしてい
るアフガニスタン女子
教育支援もその一環と
して有意である旨を述
べられました。

緒方貞子氏のプロフィール

- 一九二七年九月十六日生まれ
- 一九五一年 聖心女子大学 文学部 卒業
- 一九五三年 ジョージタウン大学 修士号取得
- 一九六三年 カリフォルニア大学バークレー校博士号取得
- 一九六五年 国際基督教大学・聖心女子大学で講師
- 一九七四年 国際基督教大学助教授(〜七六)
- 一九七六年 国連日本政府代表部公使(〜七八)
- 一九七八年 ユニセフ執行理事会議長
- 一九七九年 国連日本政府代表部特命全権公使
- 一九八〇年 上智大学外国語学部教授(〜九一)
- 一九八二年 国連人権委員会 日本政府代表(〜八五)
- 一九八三年 国際人権問題委員会委員(〜八七)
- 一九八四年 日米欧委員会委員
- 一九八六年 国際開発研究センター理事
- 一九八九年 上智大学外国語学部長(〜九〇)

- 一九九一年一月 国連難民高等弁務官(通算三期〜〇〇)
- 二〇〇一年五月 フォード財団 研究員(〜現職)
- 二〇〇一年六月 人間の安全保障委員会共同議長(〜現職)
- 二〇〇一年十二月 アフガニスタン支援総理特別代表(〜現職)

緒方貞子名誉博士による記念講演に続き、
同氏をパネリストに交えて五女子大学コン
ソーシアムの学長によるアフガニスタン女子
教育支援シンポジウムが行われました。

(編集室 福島)

アフガニスタン女子 教育支援シンポジウム

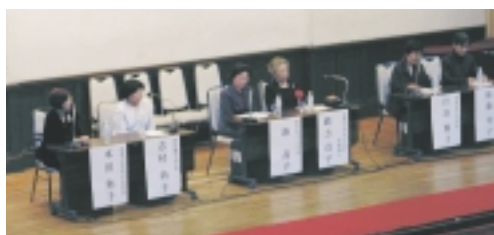
平野由紀子 人間文化研究科長
(当該シンポジウム司会)

次に引用するのは満杯の徽音堂の二階で緒
方氏の講演を聞いた本学附属中学生の考えた
ことの一部です。

・アフガニスタンは今、大変な状況であるこ
とは知っていたが、まさか病気で五歳に満
たない子どもたちの四人に一人が死んでし
まうなどという状況であったことは知らず、
とても、ショックを受けました。また、九
〇%から九五%のアフガン女性は自分たち
の国で使われている言葉の読み書きができ
ないということに驚きました。

・アフガニスタンを支援する背景にはいろい
ろな人たちの努力が必要とされていること
がわかった。まず、二つの段階があり、ア
フガンにはちゃんと機能する国家がまだな
い。また社会的なことも支援しなくてはな

らない。国家を作るといってもそう簡単にできるものではなく、また、ちゃんと機能する国家をつくるなんて、とても、難しいと思った。子どもたちや女性たちのために学校を作ったり食料を与えることもしくはならない。



シンポジウムでのパネリスト

緒方貞子氏の講演は深い感銘をあたえました。

普段自分たちが当たり前のようになっている行動、「水を飲むこと」「学校へ行くこと」...そういうことが困難な人々がいること、平和な場所でも安心して勉強ができるということは奇跡といってもよいことといった感想に続き、僕らが出来たことはアフガンについてもっと詳しくなること、小さなことでもアフガンのためになることをしたい、とあります（附属中学校ホームページから）。

私たちは、女性、子ども、共生をこれからの世界の重要なキーワードであると考えています。まさに、女子教育なくして社会の将来はない、と考える五女子大学コンソシアムはアフガン復興の支援の中心に女子教育を据えています。私たちの国も、百年前は次のようでした。「ここに群がる子どもたちは親たちと同じように虫に喰われ、税金のために貧窮の生活を送るであらう」（イサベラ・バード『日本奥地紀行』一八八〇年）。

昭和二十四年の行啓以来なかったことでしたが、皇后陛下をお迎えしての「緒方貞子氏名誉博士称号授与・アフガニスタン女子教育支援シンポジウム記念レセプション」は、このように考えると大変有意義なことでした。

地上の星たち

理学部生物学科教授 最上 善広

二〇〇三年の幕開けとともに、新堀真希さん（大学院・ライフサイエンス専攻一年）が宇宙での夢の実現に踏み出しました。新堀さんは、宇宙微小重力でのメダカの稚魚の遊泳と、帰還後の地球重力への順応過程を研究するために、NASAが主催した学生向けの宇宙実験プログラム（STARS）に参加しています。一月十六日（現地時間）に打ち上げられたスペースシャトルは約二週間の飛行後に地上に帰ってきます（この文章を書いている時点では、実験はまだ完結していません）。日本人の宇宙飛行士が誕生してから、宇宙が多少は身近になったとは言え、まだまだ遙か彼方の世界というのが宇宙に対する一般的な感覚です。しかし、宇宙飛行士にならずとも、宇宙環境のコーナーとして実験に参加すること、宇宙で、宇宙へ近づけることが出来ます。



新堀さんとフライト装置

新堀さん以外にも、宇宙実験経験者もしくは宇宙実験を目指して準備中のお茶の水女子大学（以降「本学」または「お茶大」と表記）関係者が大勢います。ここではその人たちの紹介をしましょう。

初めは黒谷明美さん。本学生物学科の卒業生で、現在は宇宙科学研究所の助教授です。日本の宇宙生物実験のパイオニアとして、TBSの宇宙特派員と一緒にアマガエルを宇宙に送り出した実験を皮切りに、向井千秋さんと一緒にスペースシャトルでのイモリの産卵と発生の実験も行っています。現在も館山の本学理学部附属臨海実験所と共同で、宇宙でのミネラル代謝を調べる実験を計画中です。

次は、石川島播磨重工業主任研究員の内田美佐子さん。本学物理学科の出身で、材料科学のスペシャリストです。内田さんはMSL・1ミッションで、材料実験の主任研究員として紅一点、ミッションの重要ポストを勤められました。その後も、ロケットの弾道飛行を使った微小重力実験などで大活躍です。

異色は、石黒節子先生。表象芸術論の立場から、宇宙微小重力を利用しようとなさっています。天女の舞の美しさは、重力から解き放たれてはじめて実現される、そんな先生のお考えが実行に移されるのも遠くはないでしょう。

また、本学化学科の森義



航空機を使った微小重力中での舞い実験

仁先生は、落下塔や飛行機を使い、化学反応への微小重力の作用を調べています。さらに、筆者も、宇宙滞在での寿命の変動を調べるための実験を準備中です。これらの研究は学生さんたちを巻き込んで進行中です。地上の星はお茶大のキャンパスで誕生しつつあります。その中からきつと近い将来、宇宙で輝く人たちが現れることを期待しています。

追伸

既にご存知の様に、現地時間で二〇〇三年二月一日午前九時頃、スペースシャトル・コロンビア号が帰還の為の大気圏突入時に、惨劇が起きてしまいました。宇宙実験の成功の報告ができなくなりました。とても残念です。新堀さんはこの悲しみにもくじけず、サイエンティストとして活動を続けるとのことです。犠牲者となられた乗組員の皆様のご冥福を心からお祈りいたします。

(編集室 福島)

COE拠点 発達心理学研究室

内田 伸子

人間文化研究科教授
COE拠点リーダー

COEの課題：

今日、子どもの発達、子育てや教育の問題は深刻さを増しています。児童虐待、育児不安、学級崩壊など学校には様々な病理が現れ、子どもの学習時間の減少と学力低下の懸念など、これからの日本の担い手となる子どもの育ちと学びに危機が生じております。

青年期にあつてはフリーターが急増し、なかなか一人前になれないモラトリアム期間が

延長して社会問題化しております。更に、長寿化による中高年期の長期化に伴い人は従来のライフコースモデルでは対処しにくい様々な生活上の問題に遭遇することになります。

これらの深刻な問題に適切な診断と処方箋を与えるためには長期的なライフスパンの視点に立ち欧米・強者型「発達」概念を脱構築することにより社会的な要因と絡めて危機的移行を説明しなくてはなりません。この



物語理解の実験場面

を担います。

発達心理学研究室の研究テーマ：

発達心理学研究室は、修士・博士の院生やPD、大学院研究生等二〇余名からなる大所帯です。言語と認識の諸問題をめぐる様々な実験研究や観察研究が進行しております。構成員の研究テーマをご紹介しますと、いかに発達心理学らしい乳幼児の母子相互作用や育児不安、コミュニケーション能力の発達から中高年期や老年期の学習動機づけ、さらに認知科学の方法論を適用しての推論やジェスチャーの基礎メカニズムの解明、文章理解・

ような問題意識から

「誕生から死までの人間発達科学

生涯発達追跡センター

の構築「が構想

されました。発達心理学

研究室もこの拠点事業

の推進の一翼

作文産出の情報処理過程から教育実践と結びついた教授学習過程、早期教育の認知発達に及ぼす影響の解明など基礎から応用まで多岐にわたっています。

研究指導が全てうまくいったとしても、院生がこれについてきてくれなくてはダメ。私に出来ることはたかが知れています。結局は院生一人一人の努力にかかっているのです。

数学科の藤原正彦教授があげておられる数学者として成功する四条件「①知的好奇心は旺盛であれ、②野心的であれ、③執拗であれ、④楽天的であれ」は心理学者として成功する

条件にも当てはまります。私は幸いにしてこの四条件を備えた、優秀、且つ、勤勉な院生に恵まれて参りました。さらに、箕浦康子教授(文化)、内藤俊史教授(教育)、石口 彰

教授(認知)、坂元章助教授(社会)、菅原ますみ助教授(発達精神病理学)など、勢いのある指導陣との共同指導体制に加えて、他の研究室の院生たちとの活発な研究交流による切磋琢磨の雰囲気、世界に先駆けた知見を

もたらずような秀逸な研究を創発させる土壌となり、

「学会誌にお茶大院生の名前が見えたらぬ号はないね」(他大学の心理学者の

コミュニケーション能力の発達についての実験場面



コミュニケーション能力の発達についての実験場面

評)というような実績につながっているものと思われま。

女性研究者を育てる:

研究者として生きるためには大学や研究所のポストを得なくてはなりません。四年制大学の女性教員の割合は領域によっても凹凸があります。家政学分野は女性教員の割合が三三%で最も高率ですが、医学や法学分野では二、三%と驚くほど低いのです。私の所属する心理学界では五〇代、四〇代、三〇代と年代が下がるにつれて女性教員の割合は十一、十四、十九%と高くなります。ところが学会誌での女性の著者の割合は心理学会が組織されて以来常に三割を占めております。女性の就労率と学会誌での女性の著者の割合とを単純に比較することはできないものの、このアンバランスは研究に従事していても就職できない女性が多いという状況を窺わせるものです。優れた研究・教育能力が期待される人々が、女性というだけで切られていく現状はなんとしても打開しなくてはなりません。お茶の水女子大学はその推進力になれるはず。人間発達科学専攻(定員十五名)の過去五年間の教育実績は、博士学位授与数 課程博士二十八名、論文博士二〇名、学術雑誌掲載論文数は二六六本、そのうち学会賞獲得数は十六本。大学改組や短大の四大化の傾向に後押しされ、発達研究者の就職はきわめて良好で、修了者全員を四年制大学に就職させることができました。

COEに採択されて真つ先に取り組んだのは経済的に最も苦しい状況にある院生の研究



ゼミでの研究発表の指導風景

生活を支援すること。すなわちRA枠を拡大し、公募研究により院生の研究助成や海外派遣、留学院生の研究支援のしくみを作ることでした。昨年一〇月よりRAとして二〇名を

採用し、公募研究に応募した五一名の中から厳正な三段階審査を経て採用された二〇名に研究助成をしております。新年度も新たに研究を公募し、助成をして参ります。このような状況変化は、教員だけではなく、院生の志気を高め、研究が活性化されつつあるという確かな手応えを感じさせてくれます。この実感を支えにして、これまで以上に、頼りになる、任せておける女性研究者を育てていきたいと考えております。

「SPP」サイエンスパートナーシッププログラム事業紹介

理学部助教・学長補佐 千葉 和義

もう何時間も記録計の針は、ゼロを指したままです。いつの間にか暗くなった実験室の片隅で、やめて帰れば良いのにこさんは粘っています。突然、針がぴくりと動いたような気がしました。息をするのも忘れて見詰めるうちに、ますます針は大きく動き始めました。気持ちの昂りを処理しきれないこさんは、阿波踊りのように体をくねらせ、その喜びを表現したのでした。

このように理科実験では、二cmほどのちつ



SPP 遣伝子判定研修の現場職員

ばけな針がほんのわずかに動くだけで、映画のラストシーンに匹敵するほどの感動が得られるのです(頻度は少ないですが)。しかし不思議なことに、このような研究からもたらされた発見は、一旦教科書の中に組み込まれると、何か難しい、分かりにくい、眠気を催す記載に化けてしまいます。実験から湧き出てくる感動を知らない子供達が、「理科離れ」するのも、仕方ないのです。それではいけないと文部科学省では、平成十四年度より「サイエンス・パートナーシップ・プログラム事業」(以下、「SPP事業」という)を開始しました。これは、大学の研究者が中学校や高等学校の生徒や先生を対象に、先進的な科学技術・理科、数学教育等を実施するという試みです。特に理数科の先生に対する授業(教員研修)には、大学の社会貢献という意義も込められています。

本理学部と附属臨海実験所は、早速教育委員会や高校(東京都教員研修センター、千葉県総合教育センター、群馬県教育委員会や、高崎女子高校、都立両国高校、森村学園、県立船橋高校、筑波大附属盲学校など)と連携して、SPP事業に取り組みました。十四年

度に実施されたテーマは、生物学分野十六件、化学分野五件、物理学分野二件、数学・情報科学分野二件です。それぞれ、一〜三日にわたり実験や講義を一〇〜三



SPP 遺伝子判定研修の現職教員

化学分野：「バラの香りがレモンの香りにかわる!」九月九日筑波大学附属盲学校で、化学科の山田眞二氏が実施した高校生実習テーマです。バラの香り成分を試験管の中で酸化すると、レモンの香りに変わるとい

○名の受講者に行く、本格的なものです。ここでは、その中から二件だけ紹介させていただきます。

生物学分野：「あなたは飲めるタイプ?」毛髪から抽出したDNAを使う「遺伝子判定」八月二十八日理学部一号館で、生物学科の小林哲幸氏が実施した教員研修のテーマです。お酒に強いが弱いかは、自分が良く分かっている事ですが、これを最新の実験技術で自ら確認してみようという実習です。即ち、飲める人とそうではない人との間では、アルコール分解酵素をコードするDNA配列が違っているのです、それをPCR法で判定するのです。受講者は、自分の毛髪を三本ほど引き抜いてその根元にくっついた細胞からDNAを抽出します。「そんなに僅かなサンプルでもPCR法でDNAを増幅できるのだ!」現職教員の皆さんは驚くと同時に、それぞれの結果に納得頂いたようです。因に小林氏は弱いタイプだったと自己申告されていましたが、筆者の観察からは「嫌いではないタイプである」という結果を既に得ています。

実習です。嗅覚で進めていく実験に、盲学校の生徒達も大喜びでした。



筑波大学附属盲学校での実験風景

SPP事業は、教官がそれぞれ独自(場合によっては世界初!)の案を申請書にして文部科学省に提案し、審査の結果採択されれば、実施することができます。実験で使用する消耗品と、当日お手伝いの大学院生への謝金は支援されます。しかし準備に時間や手間がかかったり、報告書もちよつと面倒だったり、まだ色々と改良点があります。でも、理科離れに対応した大変有意義な事業であり、社会貢献にも繋がるので、大いに推進したいところです。更に、中等教育に於ける独自の実習モデルを提案できるので、「小林方式」や「山田方式」、更には「お茶大方式」として本学教官の実習法が教育現場に定着するかもしれません。皆様の御支援をお願い致します。

によつては世界初!)の案を申請書にして文部科学省に提案し、審査の結果採択されれば、実施することができます。実験で使用する消耗品と、当日お手伝いの大学院生への謝金は支援されます。しかし準備に時間や手間がかかったり、報告書もちよつと面倒だったり、まだ色々と改良点があります。でも、理科離れに対応した大変有意義な事業であり、社会貢献にも繋がるので、大いに推進したいところです。更に、中等教育に於ける独自の実習モデルを提案できるので、「小林方式」や「山田方式」、更には「お茶大方式」として本学教官の実習法が教育現場に定着するかもしれません。皆様の御支援をお願い致します。

総合研究棟一号館が完成間近

平成十三年八月から建設を進めていた総合研究棟一号館が完成(平成十五年二月二十八日予定)に近づいています。生活科学部本館平屋部分とその隣の本館二の一部を中心に、その周辺、約三〇〇mの煙突で印象的だった汽罐室やその隣の変電室などを

取り壊して建設が始まりました。外壁は施設計画委員会、生活科学部本館に合わせて、一階から三階を煉瓦の風合いを出したものにしました。竣工後の様子は次号以降でお知らせしたいと思います。(編集室)



完成間近の総合研究棟1号館

理学部一般公開

「お茶の水博士の体験授業」開催

平成十五年三月二十一日(春分の日)理学部では、一般の方に「理学」の面白さ、「自然」の奥深さなどを実感してもらつたことを目的として、講演会、ならびに体験授業を行います。

開催時間 十時から十五時

午前の部 情報と生命セミナー講演会

「計算機を武器に生命の仕組みに迫る」

高井貴子 東京大学情報理工学系研究科講師

「植物のシグナル伝達」

山本直樹 理学部教授

「宇宙の中のサッカーボールの発見」

細矢治夫 本学名誉教授

午後の部 特別講演

「理系人間の特徴」

土屋賢一 文教育学部長

詳細はホームページ

URL(<http://www.s-cc.ocha.ac.jp/>)

(理学部 PR委員長 武次徹也)

ようこそ！お茶の水芸術事業会へ

NPOお茶の水芸術事業会理事 篠塚 英子
 (本学文教育学部教授・学長補佐)

特定非営利活動法人、Non-Profit Organization、頭文字をとってNPOお茶の水芸術事業会(以下略称「事業会」)。昨年末に誕生したピカピカの赤ちゃんです。事業会は、①社会教育の推進を図る活動、②男女共同参画社会の形成の促進を図る活動、③子どもの健全な育成を図る事業、の三本柱の活動を支援する目的で作



お茶の水芸術事業会のスタッフ

られました。財源はこうした活動に賛同する一般市民が会員として納める会費や寄付によっています。現在、本学教職員の約七割の方が、準備段階で寄付や会員として支援をしてくださいました。目下、大学関係者をはじめ卒業生や近隣の一般住民の方々に向けて広く会員募集の作業を、事務局で馬力をかけているところです。在学生に対する勧誘も次に控えています。どうして大学がNPOに協力することに

なったのか？ 国立大学の独立行政法人化の動きがきっかけです。法人になっても国費運営は変わりません。しかし大学も企業のように独自の経営管理を求められ、社会からの評価が低いと予算が減らされることにもなるのです。つまり大学の財政基盤の不安化です。当初は大学の財源を直接支援する基金による財団法人後援会づくりを考えました(九州大学、山口大学など数年の準備を経て実施)。そのためには少なくとも数億円の基金が必要です。残念ながら本学ではこうした大学支援の経済的基盤への対応が遅れていました。また巨額な募金達成も絶望的でした。そこで逆転の発想。独法化の狙いには大学が象牙の塔から飛び出て地域社会に貢献することを謳っています。大学のもつ豊富な人材と知的財産を地域社会に還元し、社会的存在としてのお茶大を強くアピールする。これにはNPOが強力な効果を発揮します。こうした背景から事業会はお茶の水女子大学と連携しながら、男女共同参画社会の環境づくりをすること等を理念としてスタートしました。地域社会の一員に甘んじることなく、国際社会での存在を高からしめるためにも、財政支援という狭い視点から距離を置きました。事業会の支援事業が大きく育つことで大学も学生も、さらに市民の方々も、利便も受けるでしょう。同時に社会的存在としての本学の評価も高まるは



特定非営利活動法人
お茶の水芸術事業会

ずです。国際協力の支援や、女性の就職、各種相談等の支援に関心をおもちの学生や市民の皆さん、是非、事務局にお立ち寄りください。本学の卒業生がご相談に応じます。
 電話・FAX〇三・五九七六・一四七八
<http://www.npo-ochanomizu.org/>

大学の暦(平成十五年二月)

- 二月四～十七日 後学期末試験
- 二月二五・二六日 学部(前期)入試
- 三月十二日 学部(後期)入試
- 三月二四日 卒業式・修了式
- 四月 九日 入学式
- 四月十五日 前学期授業開始

編集後記

日本の大学は、教育面においてもアジアのセンターとなるように更なる国際化を計ることが望まれております。その一つの現れとして、アフガニスタンの女子教育支援コンソーシアムが作られ、参加している五つの女子大学のひとつとして本学は、ますます積極的な役割を果たしていこうとしております。

その目標は、アジア全体の中で、高い教育を受けた女性の、社会での継続的な活動に寄与することです。日本の国内においても、社会で女性が継続的に活動をする上で、それに寄与する大学の模範となることを目指し、本学の大学・大学院教育システムの改善向上の取り組みを今後ともお伝えしたいと思っております。(編集長 今野)

本誌に関するご意見・ご要望・記事の掲載などは、企画広報室にお寄せください。

お茶の水女子大学広報誌 Tea Times
 平成15年2月28日発行
 編集発行/お茶の水女子大学広報委員会

編集/今野美智子(編集長 理学部) 福岡 昇(編集事務 企画広報室)
 問い合わせ先/お茶の水女子大学企画広報室 〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1
 TEL03-5978-5105 FAX03-5978-5890
 E-mail info@cc.ocha.ac.jp URL http://www.ocha.ac.jp/

印刷 昭和堂